

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名 沖 縄 県

I 学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	沖縄県具志川市立具志川東中学校					教員数
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	34
学級数	5	6	6	1	18	
生徒数	176	202	207	3	588	

II 研究の概要

1. 研究主題

「課題意識を持ち、主体的に学ぶ生徒の育成」
 ～教科・領域における基礎的・基本的事項をおさえた学習活動・個別指導をとおし
 て～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科：中心となる教科は理科・数学だが、成果を共有し全教科で実践

- 1・2学年理科
 特に中学校の理科では、分野ごとに好き・嫌いがはっきり表れ、生徒の理解の状況に差が出やすい教科なので、早めに「理科に対する興味・関心を高めること」と同時に「授業に臨む基本的な態度の育成」「目的意識を持って主体的に学習する力の育成」に重点をおいて指導しておきたい。
- 2, 3年数学
 学校および数学科職員がみな少人数授業が初年度であり、受験生である3学年のための学習支援のため・学習内容が多く生徒の理解に差が出やすい2学年が適切と感じたため。

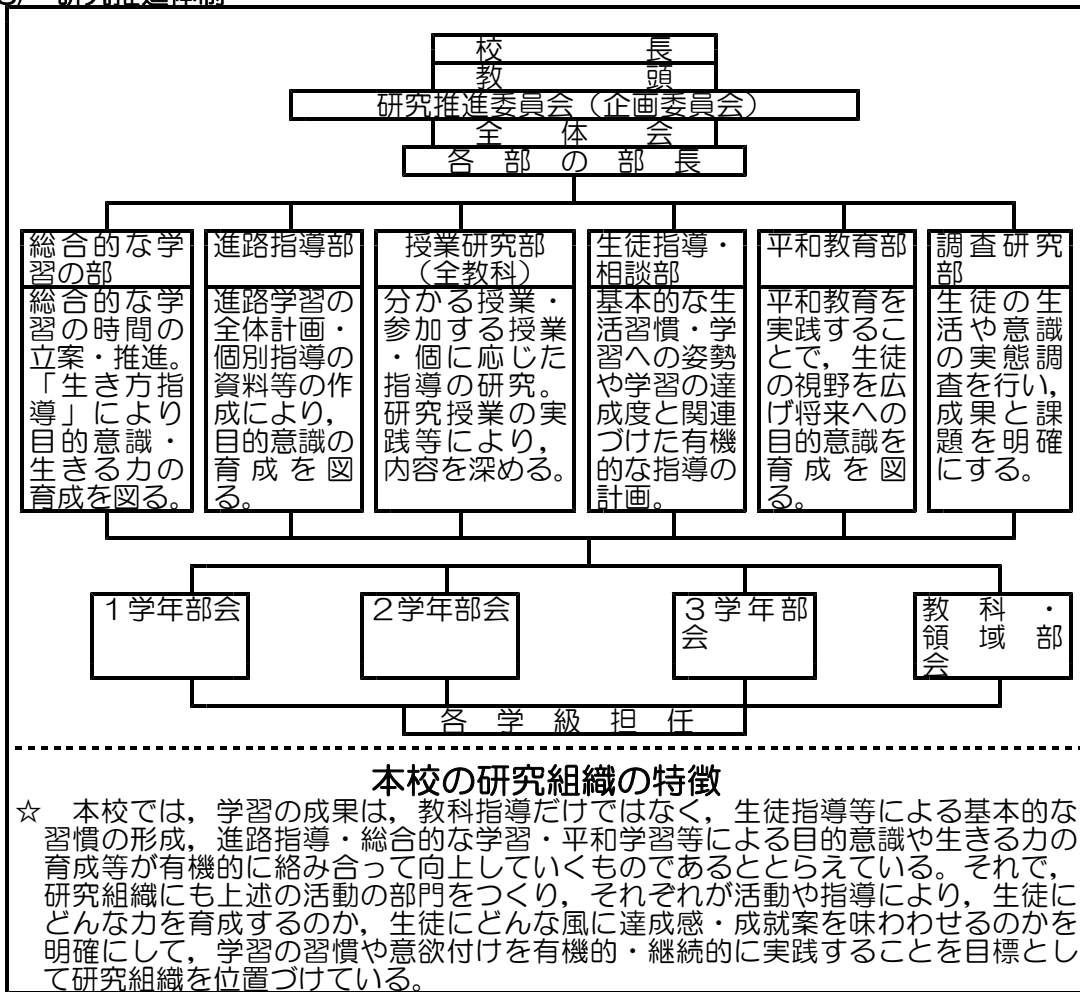
(2) 年次ごとの計画

- テーマ
 基礎・基本における「読書算の力」「技能」の定着と主体的に学習する生徒の育成
 ～「分かる授業」「参加する授業」「個に応じた授業(特に補充的な指導)」を目指した授業の改善を通して～
- 研究の見通し
 ・ 教科・領域において、生徒の興味関心を高める授業を展開すること、また個に応じた教材開発や指導法を工夫し、生徒の学力(今年度は読書算・技能中心)に応じた指導(主として補充的な指導)を行うことにより、基礎基本が定着し、意欲的に学習に取り組む生徒が育成されるであろう。
 ・ 教科・領域等において、基本的な生活習慣の確立、家庭学習の定着、意欲的な読書活動、進路学習・環境美化に力を入れ、学習への前提条件を整えていくことにより、目的意識を持って意欲的に学習する生徒が育成されるであろう。
- 研究内容・方法
 (1) 内容
 ① 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善(教科や領域での補習体制や進路指導などの目的意識を育成する取り組みと関連させた有機的な実践の工夫)
 ② 個に応じた指導のための教材の開発(主として補充的な指導に力を入れた実践)
 ③ 学力(今年度は読書算・技能中心)の評価を生かした指導の改善
- (2) 方法
 ① 理科における、「プリントによる単元内進度別学習」を中心としたT T 授業や習熟度別指導、単元に応じた少人数授業の工夫
 ② 数学科における、少人数指導・習熟度別クラスでの指導の工夫
 ③ 理・数以外の授業改善加配のついていない教科での個別指導の工夫
 ④ 全教科担任による「重点支援生徒」への取り組みと定期的・日常的な補習指導
 ⑤ 選択授業でのコース別のカリキュラムの工夫と年間計画の作成(生徒の実態に応じて補充的な指導中心のクラス、発展的な指導中心のクラスの設置：英国音楽は両方のクラスを設置)
 ⑥ 読書指導の徹底(朝自習での読書指導・読み聞かせボランティアの導入)

- ⑦ 家庭学習の習慣化に向けての継続指導
- ⑧ 系統的な進路指導（生き方指導としての進路指導と個別指導の工夫）
- ⑨ 一貫した指導・継続的な指導を行うための体制づくり

平成16年度	<p>○テーマ 「基礎・基本の定着と主体的に学習する生徒の育成」 ～「分かる授業」「参加する授業」「個に応じた授業」を目指した授業の改善を通して～</p> <p>○ 研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科・領域において、生徒の興味関心を高める授業を展開すること、また個に応じた教材開発や指導法を工夫し、生徒の学力(基礎・基本全般)に応じた指導(補足的な指導はもちろん発展的な指導の工夫に重点)を行うことにより、基礎・基本が定着し、主体的に学習に取り組む生徒が育成されるであろう。 ・ 教科・領域等において、基本的な生活習慣の確立、家庭学習の定着、意欲的な読書活動、進路学習・環境美化に力を入れ、学習への前提条件を整えていくことにより、目的意識を持って主体的に学習する生徒が育成されるであろう。 <p>○ 研究内容・方法</p> <p>(1) 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 個に応じた指導(補足的な指導はもちろん発展的な指導の工夫に重点)のための教材の開発 ② 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善(教科や領域での補習体制や進路指導などの目的意識を育成する取り組みと関連させた有機的な実践の工夫) ③ 学力(課題解決力等を含む基礎・基本全般)の評価を生かした指導の改善 <p>(2) 方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 理科における「プリントによる単元内進度別学習」を中心としたTT授業、習熟度別指導、少人数指導を継続し研究を深めながら、課題解決学習的な学習に力を入れ、思考力・課題解決力等を含む「基礎・基本」の定着を図る指導の工夫 ② 数学科における、少人数指導・習熟度別クラスでの指導の工夫 ③ 理・数以外の「指導法改善加配」のない教科での個別指導の工夫 ④ 全教科担任による「重点支援生徒」への取り組みと定期的・日常的な補習指導 ⑤ 選択授業でのコース別のカリキュラムの工夫と年間計画の作成(補足的な指導中心のクラス、発展的な指導中心のクラスの設置と指導の充実) ⑥ 読書指導の徹底と質の重視した指導 ⑦ 家庭学習の習慣化に向けての継続指導と質を重視した指導 ⑧ 系統的な進路指導（生き方指導としての進路指導と個別指導の工夫） ⑨ 一貫した指導・継続的な指導を行うための体制づくり ⑩ 指導と評価の一体化の工夫(評価の観点の明確化)
--------	---

(3) 研究推進体制



Ⅲ 15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

研究内容	成 果
理科における授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理科の授業についてのアンケート(平成15年10月1年2クラス実施)で生徒が肯定的な評価をしており、授業改善や意欲の向上、授業に臨む姿勢づくりに成果があったことがわかる。(・以前より理科が好き75%(現在理科が好き81%), 以前より得意72%, 理解しやすくなった94%, 理科の授業は将来役に立つ82%, 自力で問題を解決しようとしている87%, TTによって理科がすきになった94%) ○ 1学期最初の中間テストで生徒176人中、50点以下の生徒30人の追跡調査を行った結果、2学期の中間テストでは、17人が50点以上へ変化(50点台4人、60点台12人、70点台1人)し、40点以下が13人へと減少した。また、全体的にも高得点の生徒がふえてきている。
数学科における指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数学の授業についてのアンケート(4月、10月の2回実施)で特に3年生に肯定的な評価が多かったことから、授業がわかりやすくなり、生徒のやる気を引き出したことが分かる。(・授業が理解できた57%→80%に増加、数学が好き49%→67%に増加) ○ 3年生へのアンケートで2年次よりも定期テストの得点が伸びた生徒は、206人中198人、1学期中間テスト80点以上の生徒136人(66%)、50点以上191人(92%)で、期末テストでは、80点以上の生徒107人(5.2%)、50点以上171人(83%)と上位の得点分布が高い。
定期的・日常的な補習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「やればできる」「達成感・成就感」を味わわせるため、夏休みの宿題を約1ヶ月をかけて、ほぼ全生徒に宿題提出させた。この場合も、職員で交代しながら面倒をみて学年の教諭全員で継続指導を行った。 ○ 家庭学習を行わない生徒はもちろん、冊数が伸びない生徒も「補習」の対象とし、学習の仕方の指導・学習への意識・習慣づくりを行った。
選択授業での工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語・国語・音楽・美術の選択教科において発展的な指導、補習的な指導の両方のクラスを設置、他の教科でも・分野を限定した補充・発展指導のクラスのどちらかを設置実施(年間カリキュラムを作成。)

2. 今後の課題

- ① 理科においては、「プリントによる単元内進度別学習」に力を入れ、「知識・理解」における補充的な指導に力を注ぎ、効果も上がった。さらに、12月からは課題解決学習や少人数指導も取り入れ、思考力や課題解決力を育成する学習にも取り組み始めた。しかし、まだ研究が十分とはいえないし、発展的な指導の工夫においてもまだ研究を深める必要がある。
- ② 数学科における、少人数指導・習熟度別クラスでの指導の工夫で、2学年においては、3学年ほどの成果があがらなかった。また、発展指導の工夫に研究の余地がある。
- ③ 個別指導を充実させるためには、評価基準を明確にし、それを生かした指導の工夫に力を入れる必要がある。理数はもちろん、その他の教科でも研究を深める必要がある。
- ④ 定期的・日常的な補習指導の実践が全学年での共通実践とはまだいえない。全学年で成果を共有して取り組む必要がある。
- ⑤ 選択授業でのコース別のカリキュラムの工夫と年間計画の作成を行った。年度によって担当教諭の入れ替わりがあるが、成果と課題を引継ぎ、指導を充実させる体制を確立する必要がある。

Ⅳ 学力把握のための学校としての取組

- 標準学力検査の実施(年1回)
- 各種検定(英検、漢検、数検等)の受検者数、合格者数等
- 達成度テスト(年1回)

V フロンティアスクールとしての成果の普及について

- 近隣の学校への公開授業：11月10日(月)：対象 貝志川市内の小中学校(数学と理科の公開授業・授業研究会)
- 学力向上対策実践報告会：11月14日(金) 対象：校区内の小学校、PTA役員
- 校内研究成果発表会：3学期の授業参観後に父母に研究成果を発表する。

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級

【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ T.Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 ■ 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無